石川 ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

# れきはく

No.151
2025.7.2

令和7年度夏季特別展

# 未来へつなぐ

## 能登半島地震とレスキュー文化財

2025 7.26 SAT → 8.31 SUN

珠洲市内の寺院で行われたレスキュー（2024年7月）

令和7年度夏季特別展

# 未来へつなぐ

## 能登半島地震とレスキュー文化財

2025 7.26 SAT → 8.31 SUN 9:00-17:00

※展示室への入室は 16:30 まで

会期中無休

★ 夜間開館日　7月26日(土)～8月16日(土)の金曜・土曜は19:00まで開館

### プロローグ―「被災文化財」との出会い

手探りの状態から始まった文化財レスキュー事業。現場では、様々な被災した物品との出会いの連続で、対象分野も多岐(たき)にわたります。加賀地方を含む広い範囲から救出された資料をとりあげ、多様な被災文化財との出会いを紹介します。

志賀町の傾いた納屋・蔵に残された民具

### 第1章　発見された地域の歴史

文化財レスキューは、指定文化財はもちろん、歴史的価値がいまだ定まっていない資料も対象となり、言い換えれば新たな地域の歴史が発見される場ともなっています。能登の旧家に伝わった資料群や襖(ふすま)の中に眠っていた古文書などを展示します。

旧家の襖の中に眠っていた下張り文書

### 第3章　能登の宗教文化

能登半島地震では多くの寺社が被災し、寺社や地域で守り伝えてきた仏像、絵馬などの救出は文化財レスキュー活動の大きな軸となりました。その被害の大きさとともに、救出活動や応急処置の取り組みを紹介します。

珠洲市内の寺院で行われたレスキュー（2024年7月）

### 第4章　民具が語る能登

被災した一般家庭からは、地域の生活文化を伝える多くの民具が救出されました。救出された民具をもとに能登の自然環境と生活についてひもとき、これまで注目されてこなかった地域の民具職人にも焦点を当てます。

輪島市内での民具のレスキュー（2024年7月）

本展では能登半島地震の被災地からレスキューされた文化財を展示します。被災建物で埃にまみれていたもの、損壊したままの仏像、整理されていない古文書などが多く、まだ調査も十分ではありません。ではなぜ、地震発災から約１年半でこのような展覧会を開くのでしょうか。それは現在も被災地に埋もれたままの文化財があるからです。一般の家や、小さな寺や神社にも、地域の歴史を語るさまざまな資料があり、救出が及んでいない可能性があります。文化財レスキューについて知り、今からでも救いを求める声をあげてほしい、そのような思いを込め開催いたします。

【観覧料】一般／300円(240)円、大学生・専門学校生240円(190円)、高校生以下無料、( )内は20人以上の団体料金。65歳以上は団体料金。
障害者手帳または「ミライロID」提示の方と付添1人は無料。

【特別協力】北國新聞社 【協力】いしかわ歴史資料保全ネットワーク(いしかわ史料ネット)
【後援】国立文化財機構文化財防災センター、NHK金沢放送局、石川県市長会、石川県町長会

## 第２章　生業からみる能登

震災で大きな打撃を受け、その復興が課題となっている生業。海に囲まれた能登において基盤となる漁業や、輪島を中心として栄えてきた漆器産業、さらには沿岸部の重要な生業であった廻船(かいせん)業や出稼ぎ業を取り上げます。

珠洲市の網元の家に伝わった資料群

## エピローグ―災害を未来に伝える

被災文化財とあわせ、この大災害を未来に伝えるためにどのような資料や記録を残していくのかが課題となっています。ここでは近世から近代におけての過去の災害記録に学びつつ、避難所資料など次代につなぐべき災害資料について考えます。

大正11年　犀川大洪水絵葉書

## 関連イベント

**申込が必要なイベントは下記の方法でお申し込みください**

申込方法：当館ホームページのイベント参加申込フォーム または 往復はがき

記載内容：●希望イベント名（希望回）●お名前（備考欄に参加者全員）●ご住所　●電話番号

### 石川の歴史遺産セミナー（リレー講義・全３回）

**人びとは災害とどう向き合ってきたのか ―歴史学の視点から―**

要申込（各回定員50名／応募者多数の場合は抽選）参加無料

**第１回**
日時：８月２日(土) 13:30～15:00
演題：「日本古代の災害と社会」
講師：今津 勝紀 氏
（岡山大学文明動態学研究所・所長）
申込締切：７月21日(月)必着

**第２回**
日時：８月10日(日) 13:30～15:00
演題：「近世中期の気候変動と能登奥郡」
講師：武井 弘一 氏
（金沢大学人間社会研究域学校教育系・教授）
申込締切：7月28日(月)必着

**第３回**
日時：８月24日(日) 13:30～15:00
演題：「広域複合災害としての関東大震災 ― 都市と農山漁村の被害と復興 ―」
講師：土田 宏成 氏
（聖心女子大学現代教養学部史学科・教授）
申込締切：８月11日(月)必着

会場（３回とも）：当館ワークショップルーム

### ワークショップ

**いざという時役に立つ！防災グッズ**

段ボールで防災グッズを作る、非常持ち出しバッグを準備してみるなど、災害時に役立つスキルや知識を身につけるワークショップ

要申込（各回定員20名／応募者多数の場合は抽選）参加無料

日時：８月３日(日)　申込締切：７月25日(金)
８月９日(土)　申込締切：８月１日(金)
８月11日(月・祝)　申込締切：８月１日(金)
時間：各日程とも　午前（10:00～12:00）、午後（13:30～15:30）の２回開催
講師：石川県防災士会のみなさん
会場：当館ワークショップルーム

※講師により当日の内容が異なります。内容の詳細は当館ＨＰにてご確認ください。
※小学生以下は保護者同伴。申込時に保護者のお名前も明記ください。

### 展示解説

申込不要／観覧料が必要

日時：①７月27日(日) 13:30～14:30
②８月８日(金) 17:30～18:30〈夜間開館〉
③８月20日(水) 13:30～14:30

### 石川県立図書館との連携企画

**ミニ展示**　能登半島地震とレスキュー文化財
会期：７月８日(火)～７月24日(木)
会場：石川県立図書館　屋内広場

**学芸員トーク**　能登半島地震とレスキュー文化財
日時：７月19日(土)・８月３日(日) 11:30～12:00
会場：石川県立図書館　だんだん広場

資料紹介

# 珠洲市の網元に伝来した資料群

学芸主任　齋藤　仁志

令和７年度夏季特別展「未来へつなぐ ― 能登半島地震とレスキュー文化財 ―」の目的は、当館がレスキュー活動に関わった被災文化財を展示することを通して、文化財レスキューについて知っていただき、今後のレスキューにつなげていくことである。

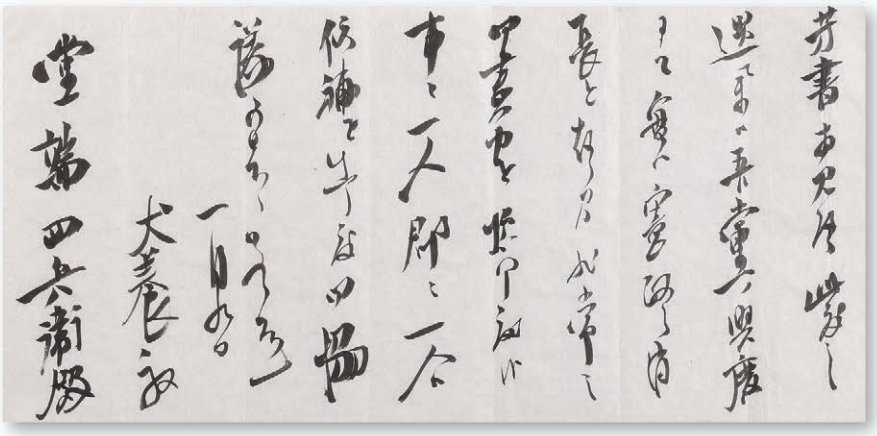
2024年１月１日の発災以降、当館には多種多様な被災文化財の情報が寄せられたが、その中にはこれまで存在が知られていなかった資料も含まれる。そのような資料を調査・研究することは、地域の歴史の知られざる事実の発見とともに、ひいては復興の核となる地域文化や生業（なりわい）の見直しにもつながっていくだろう。

ここで紹介する珠洲市蛸島町（すずしたこじままち）で網元を務めた堂端（どうばた）家に伝来した資料群も、そうした歴史資料の一つである。2024年４月、ご所蔵者から水損した古文書の対処法についてのお問い合わせをいただいたことで、貴重な資料群の存在が初めて判明した。濡れた古文書はご所蔵者の適切な処置により、状態の悪化を防ぐことができた。その後、同年６月、当館と「いしかわ歴史資料保全ネットワーク」（以下、いしかわ史料ネット）の共同で資料群の調査に伺い、近代の漁業経営や県会などに関する文献など千点以上の資料の存在が確認された。これらの資料は後日当館に運び込まれ、８月からは「いしかわ史料ネット」の協力による月一回の資料整理が始まった。

同資料群は、主に堂端四兵衛（どうばたしへえ）に関するものである。堂端四兵衛は1875年（明治８）、珠洲郡大崎村（おおさきむら）の生まれ。1892年（明治25）に堂端四郎右衛門家の養嗣子（ようしし）となり、家業である漁業に従事、定置網漁業の網元でもあった。他方、蛸島の村会議員や学務委員を歴任し、1903年（明治36）から1907年（明治40）と、1911年（明治44）から1915年（大正4）の二期にわたり石川県会議員を務めた。県会では初めは革新派（立憲政友会の旧憲政本党系）に所属していたが、のちに犬養毅（いぬかいつよし）などが率いた立憲国民党へと移籍した。

以上のような経歴の名望家・堂端四兵衛に関する資料群は膨大な数に上り、その全容はいまだつかめていない。ただし、資料整理の途中である現段階でも堂端四兵衛宛ての犬養毅の書簡など興味深い資料は続々と発見されている。この書簡の封筒からは切手が脱落しており、その上に押されていたであろう消印は残念ながら確認できない。しかし、同じ封筒には関連資料と思われる堂端宛の犬養の葉書2通が入れられており、それらの年代から考えて、前述した書簡は1915年１月に出されたものであると推測される。その内容は、選挙 ── おそらく、同年３月に予定されていた衆議院議員総選挙 ── への協力要請などで、選挙にあたって「市ニ一人、郡ニ一人ハ候補を出し度（たく）」と記されている。

このように、当時の石川県内の政治勢力の動きを物語る重要な資料のほか、蛸島近海の定置網の位置を示した絵図など、珠洲の漁業の実態解明に大いに役立つと考えられる資料などが見つかっている。今後、研究のさらなる深化とともに、石川県や珠洲の歴史の新しい側面が明らかになることが期待される。



堂端四兵衛宛犬養毅書簡（一部）

学芸員コラム
Column

# 古文書を少し読めるようになるまで

学芸主任　林　亮太

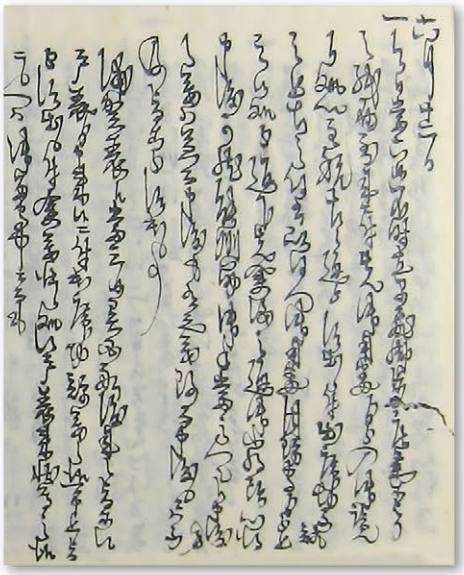
私は、江戸時代を専門としている学芸員です。日々、古文書（こもんじょ）と呼ばれる、墨で書かれたくねくねの文字を読み、解読しています。今でこそ古文書を少し読むことができるようになりましたが、勉強を始めた当初は全く読めなくてとても辛かったです。

古文書を読もうと思った方はわかるかもしれませんが、くねくね文字を読む以前に、そもそも翻刻（ほんこく）された文章すら読むことができません。返り点もないので、読み方がわからないのです。私は、わからない文字、読み方はとにかく人に聞き、また古文書の入門書を読み漁り、学生を終えるころにはほんの少しですが、読めるようになっていました。ただ、ほんの少し読める程度でしたので、時間が経つにつれもっと読めるようになりたい、と思うようになりました。学生生活を終え、しばらくして以前から通っていた史料館で仕事をすることになり、毎日古文書を読み続けているうちに、徐々に解読スキルも上がっていきました。

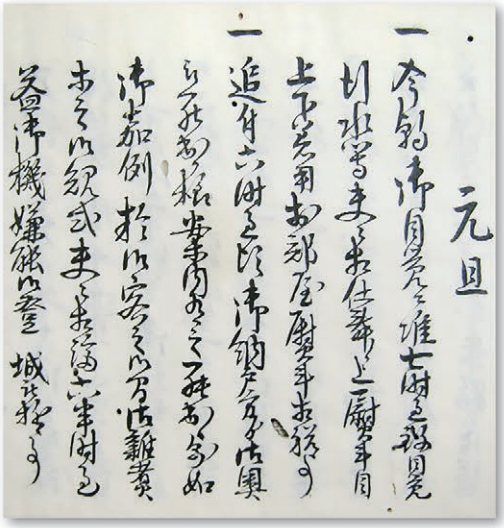
私が古文書の勉強法で効果的だと思ったものの一つに、古文書を声に出して読むという方法があります。江戸時代の古文書には、よく使われる慣用句が多くあります。有名なのは文末につく「御座候（ござそうろう）」などの「候」を使ったものや、「被仰付（おおせつけられ）」などの「被」を使ったものです。そういった慣用句をたくさん覚えることで、古文書の流れがわかり、文字自体が読めない場合でも候補が浮かんだりします。声に出して古文書を読み、そのリズムを脳裏に刻むことが古文書を読めるようになる近道だと思います。

現在、古文書の読み方を教える立場になりましたが、読めない文字はたくさん出てきます。古文書は手書きですので、人により癖の強弱があります。基本的に辞典をみれば文字はわかりますが、たまに辞典にないような強烈な癖字を書く人もいます。加賀藩年寄（他藩の家老に相当）の奥村栄通（おくむらてるみち）の文字を初めてみた時は、「個性的な文字だなぁ・・・この文字全く読めない！」と年寄研究をしていた私は絶望しました（史料１）。青年期は癖が弱めの文字でしたが（史料２）、大人になり癖が強くなったようです。私は、毎日その文字と格闘し、しばらくして読めるようになりました。栄通は、とても几帳面な性格です。文字は、何度出てきても同じように崩して書いているため、一度出てきた文字や部首を覚えてしまえば読めるようになったのです。

そのほかにも様々な古文書を読み続け、私はなんとか古文書を少し読めるようになりました。古文書を読むことができれば、当時の社会状況や地域の出来事を知ることができますし、現代ではおそらく誰も知らないであろう当時の出来事についての記述を発見することもあります。当館でも古文書講座を開催しておりますので、ご興味のある方は一緒に古文書を読んでみませんか。



史料１
「御用方手留、同附録」74（嘉永６年６月12日条）



史料２
「日記」１（文政12年元旦条）

※所蔵はいずれも金沢市立玉川図書館近世史料館

# 特集 令和6年能登半島地震

令和６年能登半島地震により、能登半島を中心とした石川県内各地で多数の文化財が甚大な被害を受けました。当館では発災直後より文化財レスキュー事業に関わってきましたが、救出された文化財一つひとつが地域の歴史や文化を守り伝えるものであることを再認識する機会となっています。今年度の「特集　令和６年能登半島地震によせて」では、被災した文化財、被災地よりレスキューされた文化財をテーマとし、その歴史的意義や当館学芸員が考えたことを発信します。

## 輪島の漆掻き職人

学芸課長　大井　理恵

漆器の産地・輪島周辺には多くの漆掻き職人がいた。輪島市門前町和田のＹ氏（明治34年生まれ）もその一人であり、道具と漆木買入帖、書簡類が家に残されていた。

職人たちは漆の木を探し、交渉して買い取り漆を掻いたため、活動範囲は能登に限らない。Ｙ氏の長男によると、１年のうち漆掻きの時期（６月から晩秋）はほぼ県外にいたという。購入相手・本数・場所・金額などを記した漆木買入帖は昭和９年（1934）～34年（1959）の間の12冊で、これによると昭和13年頃までは羽咋郡・鹿島郡、昭和18年頃までは富山県東・西砺波郡、昭和19年以降は新潟県西頚城郡名立村（現上越市名立区）周辺で活動したとみられる。昭和34年には名立村の37人から「殺し掻き」「養生掻き」あわせて205本を購入している。連日漆の木と木の間を歩き回る重労働であったことは想像に難くない。Ｙ氏は雇われではなく、木の購入や宿泊の交渉、道具の手配や漆の配送も一人で行っていた。自立した職人は苦労の分、実入りも良かったと思われる。

漆掻き道具は、木の皮を剥ぐコシガマ、傷をつけるキリカマ、漆液を集めるヘラ、容れ物から漆液をこそげ取るコクリなど一通り揃い、購入先は福井県鯖江市の鍛冶職人とみられる（道具の名称は鍛冶からの書簡による）。替えが必要になると鯖江から送ってもらい、また同じ鍛冶の道具を使う同業者に融通してもらった記録もある。繊細な漆掻きの作業には専門の鍛冶が手がけた道具が必要不可欠であった。

Ｙ氏の仕事ぶりは真面目で、掻いた漆の質も良く、輪島市鳳至町の塗師屋と直接取引をしていたという。昭和35年（1960）に塗師屋からＹ氏に宛てた書簡には、前年の漆不足から一転し今年は輸入漆が大量にあるが、採った漆は全て引き受ける、とある。一方Ｙ氏は、同時期に春慶塗の組合にも漆を売り込んだようで、こちらは高山市役所からの丁重な断りの書類が残る。漆の価格変動に翻弄され、収入を確保するために必死だったのだろう。輪島の漆掻き職人は、高度経済成長期に待遇のよい雇用が増えたこと、輸入漆による国産漆の価格混乱が引き金となり、昭和35年頃にほぼ廃業したとみられている※。

まだ調査中の資料だが、当時の漆掻き職人の実態について多くを伝えてくれる。Ｙ氏の長男は「漆器だけではなく漆掻きのことも知ってほしい」と語る。輪島周辺にはまだ漆掻きの資料が残されている可能性があり、失われる前にレスキューにつなげることができないだろうか。

※安嶋是晴『輪島漆器からみる伝統産業の衰退と発展』38-40頁　晃洋書房　2020年

漆掻きの道具と漆木買入帖

# によせて Vol.6

## よみがえったお薬師さま

学芸員　中井　夏帆

門前に樹齢約850年の「倒スギ」（石川県指定天然記念物）が立つことで知られる珠洲市上戸町高照寺。寺伝によれば、天喜元年（1053）法住寺二世虚円（一説に康円の誤りか）の開創であり、上戸気多神社の別当寺であった。本尊は薬師如来坐像で、海中より引きあげられたとの伝承をもつ霊験あらたかな像である。実はこの薬師如来像はごく最近までゆくえ知れずであった。現在は20年ほど前に迎えられた新しい薬師如来像が本尊として祀られている。

能登半島地震の発生から３ヶ月ほど経った昨年４月某日、仏像文化財の応急処置を行う修復師が高照寺を訪れた。本堂の厨子内を探索したところ、仏像の部材がバラバラの状態で発見された。部材を接合すると旧本尊とみられる薬師如来像が姿をあらわしたのである。さらに仏像の底面には墨書銘が記され、像の制作年代が室町時代の享禄元年（1528）であること、真脇村（現能登町真脇）の住人が施主となったことなどが判明した。仏像の由来を伝える直接的な文字資料が発見されることは貴重で、寺院や地域の歴史を知るうえで大変有意義である。

作風をみてみよう。個性的な面貌、箱を積み上げたような体型、つよい曲線の衣文があらわされる点が特徴的である。この特徴は、「院派仏師」とよばれる仏師系統に属する仏師が南北朝時代以降に制作した仏像に共通する特徴で、本像も院派仏師の制作である可能性が高い。本像の存在は中世以降の県内における院派仏師の動向を探るうえでも重要である。

本像は７月26日（土）から８月31日（日）まで当館で開催される夏季特別展「未来へつなぐ ―能登半島地震とレスキュー文化財―」にて発見後初めて公開する。文化財レスキューをきっかけとしてその存在が明らかとなり、悠久の時を経てよみがえった薬師如来像の姿をぜひご覧いただき、能登の宗教文化に思いを馳せる機会となれば幸いである。

薬師如来坐像　享禄元年（1528）　高照寺蔵

薬師如来坐像　像底墨書銘

### 当館の主な文化財レスキュー活動状況
【令和７年４月～６月】

| 期　日 | 曜日 | 活動内容 |
|---|---|---|
| 4月15日 | 火 | 輪島市　資料館　現地調査 |
| 4月16日 | 水 | 穴水町　寺院　現地調査 |
| 4月17日 | 木 | 輪島市　個人宅　レスキュー |
| 4月26日 | 土 | いしかわ歴史資料保全ネットワーク（以下、いしかわ史料ネット）の協力による被災古文書の整理作業 |
| 4月28日 | 月 | 野々市市　個人宅　レスキュー（珠洲市からの避難資料） |
| 4月30日 | 水 | 輪島市　個人宅２件　現地調査 |
| 5月 2日 | 金 | 珠洲市　某町集会所　現地調査 |
| 5月10日 | 土 | いしかわ史料ネットの協力による被災古文書の整理作業 |
| 5月14日 | 水 | 珠洲市　個人宅　現地調査 |
| 5月16日 | 金 | 輪島市　個人宅　現地調査 |
| 5月29日 | 木 | 金沢学院大学の協力による被災文化財Ｘ線調査（輪島市からの避難資料） |
| 6月20日 | 金 | 輪島市　個人宅　レスキュー |
| | | 志賀町　神社　現地調査 |
| 6月29日 | 日 | いしかわ史料ネットの協力による被災古文書の整理作業 |
| 6月30日 | 月 | 令和６年能登半島地震被災建造物復旧支援事業・被災文化財等救援事業活動報告会 |

### 文化財レスキューとは

地震で被害を受けた、もしくは倒壊しそうな建物に残された「文化財」の救出避難・応急措置・一時保管を実施する事業です。
石川県では国の文化財防災センターと連携して学芸員らによるレスキュー隊を編成しており、当館も県立博物館として活動にあたっています。
なお、ここで言う「文化財」とは、地域の歴史を伝える有形文化財や有形民俗文化財を指しますが、指定の有無は問いません。

## 催し物案内 Information

展示解説や各種講座などの情報をお知らせします。
※各種催し物の詳細については、当館ホームページにてお知らせします。

### 7月　休館日：7/23(水)～7/25(金)

**19日(土)**
**れきはくゼミナール** 13:30～15:00　聴講無料／申込不要
「加賀藩の鷹匠と鷹の飼育」講師：林 亮太（当館学芸主任）

### 8月　休館日：なし

**2日(土)**
**石川の歴史遺産セミナー** 13:30～15:00　聴講無料／要申込
**「人びとは災害とどう向き合ってきたのか ― 歴史学の視点から ―」第１回**
「日本古代の災害と社会」
講師：今津 勝紀 氏（岡山大学文明動態学研究所 所長）

**10日(日)**
**石川の歴史遺産セミナー** 13:30～15:00　聴講無料／要申込
**「人びとは災害とどう向き合ってきたのか ― 歴史学の視点から ―」第２回**
「近世中期の気候変動と能登奥郡」
講師：武井 弘一 氏（金沢大学人間社会研究域学校教育系 教授）

### 8月　休館日：なし

**23日(土)**
**れきはくゼミナール** 13:30～15:00　聴講無料／申込不要
「中世以降の石川県における院派仏師の活躍」
講師：中井 夏帆（当館学芸員）

**24日(日)**
**石川の歴史遺産セミナー** 13:30～15:00　聴講無料／要申込
**「人びとは災害とどう向き合ってきたのか ― 歴史学の視点から ―」第３回**
「広域複合災害としての関東大震災 ― 都市と農山漁村の被害と復興 ―」
講師：土田 宏成 氏（聖心女子大学現代教養学部史学科 教授）

### 9月　休館日：9/1(月)～9/2(火)、9/24(水)～9/26(金)

**20日(土)**
**れきはくゼミナール** 13:30～15:00　聴講無料／申込不要
「金沢のニワカ ― 消えたカーニバル文化」
講師：大門 哲（当館学芸主幹）

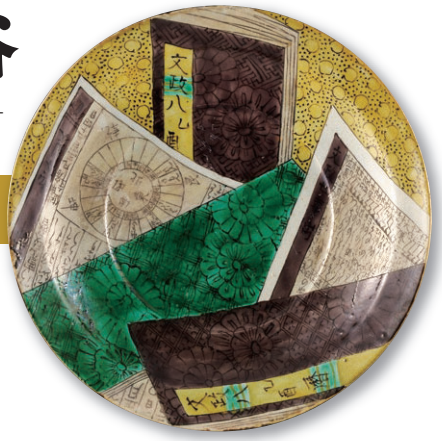
## 次回展覧会のお知らせ

### 秋季特別展 花開く九谷
### ― 19世紀加賀藩のやきもの生産ブーム ―

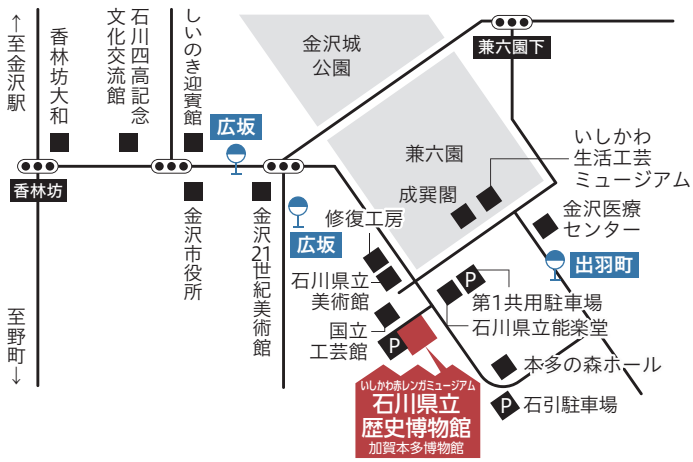
**令和７年(2025)　9/27(土)～11/9(日)**

江戸時代後期に入ると、技術の伝播や諸藩の産業振興策の影響により列島各地で数多くの窯が成立し、陶磁器の生産が行われるようになります。こうした流れの中で、加賀藩やその支藩でも多くの窯が築かれます。今日、「再興九谷」と称される窯の製品は色絵磁器が注目されますが、その実態は日常で使われる陶磁器も含めた多岐にわたる製品の生産を目指したものでした。

本展では、伝世品に加え、窯跡や城下町遺跡からの出土資料、窯の経営にかかわる古文書などの多様な資料から19世紀の加賀・能登での陶磁器生産の実態を明らかにします。



色絵暦草紙図平鉢　吉田屋窯　出光美術館蔵





いしかわ赤レンガミュージアム
**石川県立歴史博物館**
ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-1
TEL：076-262-3236　FAX：076-262-1836
E-mail：rekihaku@pref.ishikawa.lg.jp
https://ishikawa-rekihaku.jp/